

問一

次の例のように、文の「」に入る指示語(こそあど言葉)を選び、
○をつけましょう。

(例)今日は寒いから、「どの・この」上着を着ます。

- ① 山の上に見える「この・あの」学校が、私の通っている学校です。
- ② あなたが手にしている「その・あの」本は、宮沢賢治の有名な本です。
- ③ 昨日は水族館に行った。「ここ・そこ」のイルカショーは楽しかった。
- ④ 今日の服は「どれ・あれ」にしようか、たくさんあって迷います。

問二

次の文の空らんに入る接続語(つなぎ言葉)を後より選んで
書きましょう。

- ① 今日は雨が降るそう^ふだ。、もっと寒くなるらしい。
- ② 今日は晴れるそう^だだ。、外で元気に遊ぼう。
- ③ 今日は雨が降ってほしい。、畑に水をやれるからだ。
- ④ 今日は晴れてほしい。、暑すぎるのはたまらない。

だから なぜならば しかし しかも

問三

次の文章を読んで、問題に答えましょう。

「ではみなさんは、そういうふうに川だといわれたり、乳ちちの流れたあとだといわれたりしていたこのぼんやりと白いものが本当は何かごしうちですか。」先生は、黒板につるした大きな黒い星座の図の、上から下へ白くけぶった銀河帯のようなどころを指しながら、みんなに問いをかけました。

カムパネルラが手をあげました。それから四、五人手をあげました。ジョバンニも手をあげようとして、急いでそのままやめました。たしかにあれがみんな星だと、いつか雑誌ざっしで読んだのですが、このごろはジョバンニはまるで毎日教室でもねむく、本を読むひまも読む本もないので、なんだかどんなこともよくわからないという気持ちがするのです。

ところが先生は早くもそれを見つけたのでした。

「ジョバンニさん。あなたはわかっているのでしょうか。」

ジョバンニはいきおいよく立ち上がりましたが、立って見るともうはつきりとそれを答えることができないのでした。ザネリが前の席からふりかえって、ジョバンニを見てくすつと笑いました。

けんじ
(宮沢賢治『銀河鉄道の夜』出題にあたり一部書き改めたところがある。)

- ① この文章には、いくつの形式段落だんらくがあるでしょうか。段落の数を漢数字で書きましょう。

段落

- ② 主人公のジョバンニの気持ちが書かれているのは何段落目でしょうか。

漢数字で書きましょう。

段落目